

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0472400324		
法人名	社会福祉法人日就会		
事業所名	グループホーム悠里の郷	ユニット名	さくら
所在地	宮城県亶理郡亶理町吉田字宮前12番地1		
自己評価作成日	令和 3 年 11 月 25 日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 3 年 12 月 20 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは県南に在り、温暖な気候で、とても住み易い環境です。
 建物は木目調で温かみがあり、冷暖房完備でスプリンクラーも設置しています。
 天候の良い日はウッドデッキで日光浴をして、のんびり過ごす事も出来ます。
 昨年・一昨年は中止致しましたが、例年ですと夏には隣接する特別養護老人ホームで地域の方々の
 合同で夏祭り、秋には家族の方も参加して芋煮会や長寿を祝う会を行う等、毎月、季節を感じる行事を
 実施致しております。
 また、利用者の方が安心して穏やかな生活が出来るようにAEDを設置し、職員は救命の講習に参加して
 おります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広い敷地内に法人運営の特別養護老人ホームとデイサービスがあり、少し離れて小学校や
 幼稚園がある静かな住宅地に位置している。ホームは和風の造りで床暖房が設備され、日当
 たりがよい広い庭には家庭菜園が楽しめる畑がある。入居者はウッドデッキや談話室、和室
 等を自由に行き来し、天気の良い日は庭のベンチで日向ぼっこをする等穏やかにのんびりと
 暮らしている。職員は広い食堂を利用して夏祭りやクリスマス会等の行事に工夫を凝らし、企
 画実行し入居者の笑顔を大切に支援している。基本理念「のんびり 共に 笑顔で 楽しく」を
 活かした支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホーム悠里の郷)「ユニット名 さくら 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関・事務所に理念を掲示し、職員全員が確認する事で、互いに日々のケアを振り返り、向上に努めている。	開設時に作成した基本理念と10項目の介護理念を継続している。毎年3月に「倫理と理念」の研修があり理念を振り返り、見直し継続している。入居者に寄り添い安心と笑顔のある支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年は、夏祭りや芋煮会等での交流、認知症カフェへの参加・ボランティアの受け入れ等があったが、感染症予防対策の為、この1年間は隣接する特養ホームの苑庭を散策し、挨拶を交わす程度状況。	隣接する法人特養ホームと合同の夏祭りや家族と一緒に敬老会等行事はコロナウイルス禍で休止している。ごみ捨て場に行く途中やホームの縁石に腰かけている時、通りがかる地区住民と挨拶を交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は、各種行事を通して地域の人々とも積極的に交流を持ち、認知症の方に対する理解を深めて頂けるように発信していたが、感染症予防対策の為、この1年間程は控えている状況。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	感染症予防対策の為、対面での会議開催は控えているが、2か月に1回、書面での運営推進会議を開催し、家族様代表・地域の区長・民生委員・学識経験者等から広く意見を頂き、サービス向上に活かしている。	ホームの運営状況や行事の予定と実施の様子を報告している。身体機能の低下等で、転倒のリスクが大きい現状に「職員間の話し合いが大事」等の貴重な意見がある。職員への感謝の言葉も寄せられている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	書面ではあるが、運営推進会議で情報交換の場を設けて協力関係を築いているほか、町や地域包括支援センターからも研修の案内を頂いて参加している。	介護保険制度の分からない事や事故報告、保険の認定、区分変更等で担当職員に相談と助言を得ている。町主催の多職種研修会や介護事業協議会の勉強会に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が身体拘束をしないケアの理念を理解し、身体拘束は行っておらず、毎月の会議でも日々のケア対応を互いに振り返っている。	身体拘束適正委員会を開催し、職員に内部研修を行っている。職員一人ひとり研修の「評価シート」を提出している。「仕事に行く」と外に出たい様子を見かけたら、側に寄り添い話をしながら一緒に行動する等見守る支援を行っている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全ての職員が虐待防止の理念を理解した上で、日々のケア対応に努めているほか、毎月の会議でも互いのケア対応を振り返り、確認している。	毎月のユニット会議で入居者一人ひとりのモニタリングを行い、身体拘束や虐待に当たらないか話し合っている。不適切な言葉やケアを発見した時は職員同士その場で注意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年数回と学ぶ機会は少ないが、各種会議や内部研修時等に成年後見制度をはじめとする権利擁護に関する話し合いを職員間で持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約手続きに関しては、家族様が理解出来たか必ず確認し、納得されるまで十分な説明を行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、利用者様・家族様がいつでも意見・要望が出せる体制を取っている。また、家族様が来所時は積極的に意見や要望等を聞き取り、サービス向上に反映させている。	今年度は電話での対応が多くなっている。面会の問い合わせが多く、11月より玄関にて10～15分の面会を実施した。入居者の顔写真の入った「悠里の郷便り」は家族に喜ばれている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、いつでも職員の話をも十分に聞き、質の向上に努めている。	毎月の全体会議やユニット会議で職員の意見や要望を聞いている。管理者の個別面談がある。リフレッシュ休暇の取り方や予防接種について話し合っている。裏門付近は暗いのでセンサーライトを設置した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は人事考課制度や職員個々の実績・勤務状況等を把握し、職員の配置を行って就業環境の整備を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人事考課制度を活用し、職員個々の力量を把握しているほか、外部研修への参加や定期的な内部研修を開催し、人材育成に努めている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での交流のほか、宮城県グループホーム協会に加入して研修に参加し、ケアの向上に努めている。	法人の特別養護老人ホームやデイサービスと合同で夏祭り等行事の企画実行を行う等連携を図っている。「日就会職員互助会」で交流をしている。亘理郡居宅連絡会や地区の吉田拠点会議に参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の不安・不満・要望・意向等を伺う機会を作り、個別に対応する事で、安心と信頼関係を気付く事が出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入時は利用者様・家族様からの相談や心配な事等を確認しており、面会時にも家族様への声かけを行い、家族様が安心出来るようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様・家族様の意向を確認しながら必要な支援を提供出来るように対話する機会を設けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活全般において利用者様と接する機会を持ち、共に過ごす事により、身近な存在であるようにしている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期通院に関しては、家族様の協力を得ながら行っている。 例年ならば敬老会・芋煮会等にも家族様の参加を促しているが、感染症予防の為、ここ1年間程は控えている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の体調や地域の感染症状況等に応じ、無理のない範囲で町内のドライブに参加して頂いている。以前は行事を通じて地域住民との馴染みの関係が継続出来ていたが、現在は控えている。	友人や知人などの来訪や墓参り等の外出は休止している。家族との外出は通院の時だけである。ごみ置き場に行く途中や天気の良い日にホームの縁石に腰かけて、歩いている住民と挨拶を交わしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格や相性等を把握し、食事の席や活動への参加を促し、良好な関係を気付く事が出来るように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した利用者様や家族様に関して、必要に応じた現状把握に努め、支援が必要な状況なのかを確認している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様一人ひとりの意向や暮らし方の希望を把握し、その人らしい生活が出来るように支援している。 把握困難な方には、本人の視点に立って話し合い、検討している。	日常の会話から入居者の思いや意向を把握している。「寿司が食べたい」の要求が多い。職員から声掛けし、会話を多くする工夫をしている。敬老会に化粧をし、おしゃれな服を着る方がいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の実態調査には、生活歴や生活環境・生活の様子等を確認している。 実態調査の資料を職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人ひとりの心身状態を把握し、個人に合った生活を送る事が出来るように支援している。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画とモニタリングを定期的に行い、利用者様・家族様の意向を確認している。 状態に変化が有った方には必要なケアを検討し、介護計画を作成している。	毎月のユニット会議で入居者一人ひとりのモニタリングを行い、担当職員がモニタリング表を作成する。6ヵ月毎に担当者会議を開き、計画の見直しをする。職員に「ケアプランについて」の研修会を行った。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	課題や心身に変化が有った場合はケースに記録し、情報の共有を行っている。 随時、利用者様の心身状態に応じて支援方法を検討し、実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	随時、利用者様の心身状態に合わせてケアの方法を検討し、実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	例年は、地域の高齢者の方へ行事案内を差し上げ、御参加頂く事で交流を持って楽しんで頂くようにしていたが、感染症予防対策の為、この1年間は隣接する特養ホームの苑庭を散策し、挨拶を交わす程度の状況。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様・家族様の希望する医療機関を受診している。本人様の状態に合わせて家族様と連携し、適切な医療を受ける事が出来るように支援している。	月1回の訪問診療の受診11名と、他は家族対応でかかりつけ医に通院をしている。通院時はケース記録を持っていく。歯科医の訪問治療と週1回歯科衛生士の口腔ケア指導の来訪がある。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当グループホームには看護職員が配置されていない為、隣接している特養ホームの看護師へ情報提供・連携し、適切な判断が出来る体制を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、利用者様の介護情報や看護サマリー等を提供している。早期退院に向けて、家族様や医療機関の相談員等との調整を行っている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した利用者様の家族様には、当施設として出来る対応を説明し、今後の支援について話をする機会を設けている。	「重度化対応に関する指針」を成文化して入居時に本人、家族に説明している。看取りはしていない。医療的処置が必要となった場合やホームで対応が困難な場合は医療機関や他介護施設へ移行と記してある。段階的に主治医と話し合い方針の統一を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	グループホームの職員は、消防署で開催されている救急救命講習を順次受講し、全職員が受講修了するようにしている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震・水害等の災害マニュアルを作成し、消防署の協力を頂き、年2回の防災訓練を実施している。災害時に備えて食品の準備と確認をしている。	消防署立会いで、夜間を含む消防訓練と防災訓練を実施している。入居者一人ひとりの状態を記入した「防災カード」はいつでも持ち出せるようファイルに閉じてある。カードは随時見直している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人ひとりに合わせた声掛けを行っており、自尊心やプライバシーを損ねる声掛けは行わないように支援している。	トイレ誘導の声がけは耳元でトーンに気を付ける、排泄や入浴時はタオルで覆う等恥ずかしい思いをしないよう配慮している。食事を残しても無理強いしないよう声がけに注意する等対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様の意向を尊重し、自己決定が出来るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の意思を尊重し、業務の流れを押し付ける事が無いように支援を行っており、無理強いはしないようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	気候・寒暖差等を考慮しながら、その人らしい身だしなみ・おしゃれが出来るように支援している。 清潔を保つ事が出来るように意識している。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材や畑からの穫れたて野菜を取り入れて食事を提供している。 下ごしらえや食器の片付け等の協力を頂いている。	入居者の好みや旬のものを取り入れた献立は職員が作成している。行事食や誕生日には手毬寿司やケーキを手作りしている。はらこ飯やホッキ飯食事会の日があり、入居者は大喜びで残さず食べる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事摂取状況・体重を把握している。 栄養・水分等が不足している利用者様には、その人に合った食品を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア希望の利用者様には、週1回、歯科衛生士による口腔ケアを行っている。 歯科衛生士にアドバイスをもらい、口腔ケアを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様一人ひとりの排泄を確認し、排泄状況の把握に努めている。 排泄パターンを把握し、個人に合ったケアを行っている。	排泄チェック表を活用して適切なトイレ誘導をしている。リハビリパンツやパッド、布パンツの方等一人ひとりの状態に応じた支援を行なっている。ふらつきのある方には、トイレから離れず見守っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトを多く提供し、午前にラジオ体操・午後には軽体操を行って運動している。排便が見られない利用者様に関しては、主治医に相談し、排泄状況に応じて下剤服用もしている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴状況を把握した上で、利用者様個々の意向に応じた入浴支援を行っている。	週2～3回の入浴を基本としている。拒む方には時間をずらしたりタイミングを見る等、声かけに工夫をしている。ゆず湯は大喜びである。浴槽をまたぐのが困難な方はシャワー浴にしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムに影響が出ない範囲で、その時々状況に応じた休息をして頂いている。 睡眠状況も把握し、記録している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	家族様より処方薬に関する情報提供書を預かり、職員が薬の管理を行っている。 服薬時は、手渡し介助や全介助等、利用者様の状態に応じた介助対応をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の状態に応じて、食器の片付け・清掃・洗濯物たたみ等の役割を担って頂いている。 また、各種活動や行事、外出・散歩等で、気分転換を図っている。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	独歩や車椅子にて施設敷地内や隣接する特養ホームの苑庭等の散策を行っているほか、利用者様の体調や地域の感染状況等に応じ、無理のない範囲で町内のドライブに出掛けている。	亘理公園や竹駒神社等、季節を感じる外出はコロナ禍の為休止している。天気の良い日はウッドデッキや敷地内のベンチに腰かけて、おしゃべりや日向ぼっこをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外部の事業者へ支払う金銭は施設職員側で管理しているほか、手元に小遣いを持ちたい希望があれば少額の金銭を自身で管理して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	精神的に不安定な時をはじめ、状態に応じて家族様へ連絡し、精神の安定を図れるように努めている。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内の装飾は季節に応じて変えて、季節感を感じ感じる事が出来るように工夫しており、利用者様が居心地の良い生活環境をつくるように努めている。	食堂は天窓から陽射しが入り明るい。定期的に窓を開けて空気の入替えを行い、澱みがなく適温を保っている。もみの木で作ったクリスマスツリーやサンタクロースが季節を感じる。談話室や和室等入居者は自由に出入りし、思い思いに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂フロア・談話室・和室が有り、気分に合わせて自由な場所で過ごして頂いている。天候の良い日には、屋外のベンチも御利用頂いている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には、馴染みの有る家具や装飾品等を自室内に持ち込む事が出来る事を説明し、自由にお持ち頂いている。	ベッドと押し入れ、洗面台が備え付けである。衣装ケースや一人用ソファ、テレビ等家具を使い易いよう配置している。位牌や家族の写真、自分の作品等を飾り、安心して過ごせる自分の部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室・トイレ・浴室等に掲示物を設置し、トイレの場所もわかりやすいように工夫している。 一人ひとりの認知症の状態に応じて自立した生活が送れるような環境整備に努めている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0472400324		
法人名	社会福祉法人日就会		
事業所名	グループホーム悠里の郷	ユニット名	はぎ
所在地	宮城県亶理郡亶理町吉田字宮前12番地1		
自己評価作成日	令和 3 年 11 月 25 日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 3 年 12 月 20 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは県南に在り、温暖な気候で、とても住み易い環境です。
 建物は木目調で温かみがあり、冷暖房完備でスプリンクラーも設置しています。
 天候の良い日はウッドデッキで日光浴をして、のんびり過ごす事も出来ます。
 昨年・昨年は中止致しましたが、例年ですと夏には隣接する特別養護老人ホームで地域の方々の
 合同で夏祭り、秋には家族の方も参加して芋煮会や長寿を祝う会を行う等、毎月、季節を感じる行事を
 実施致しております。
 また、利用者の方が安心して穏やかな生活が出来るようにAEDを設置し、職員は救命の講習に参加して
 おります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広い敷地内に法人運営の特別養護老人ホームとデイサービスがあり、少し離れて小学校や
 幼稚園がある静かな住宅地に位置している。ホームは和風の造りで床暖房が設備され、日当
 たりがよい広い庭には家庭菜園が楽しめる畑がある。入居者はウッドデッキや談話室、和室
 等を自由に行き来し、天気の良い日は庭のベンチで日向ぼっこをする等穏やかにのんびりと
 暮らしている。職員は広い食堂を利用して夏祭りやクリスマス会等の行事に工夫を凝らし、企
 画実行し入居者の笑顔を大切に支援している。基本理念「のんびり 共に 笑顔で 楽しく」を
 活かした支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホーム悠里の郷)「ユニット名 はぎ 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関・事務所に理念を掲示し、職員全員が確認する事で、互いに日々のケアを振り返り、向上に努めている。	開設時に作成した基本理念と10項目の介護理念を継続している。毎年3月に「倫理と理念」の研修があり理念を振り返り、見直し継続している。入居者に寄り添い安心と笑顔のある支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年は、夏祭りや芋煮会等での交流、認知症カフェへの参加・ボランティアの受け入れ等があったが、感染症予防対策の為、この1年間は隣接する特養ホームの苑庭を散策し、挨拶を交わす程度状況。	隣接する法人特養ホームと合同の夏祭りや家族と一緒に敬老会等行事はコロナウイルス禍で休止している。ごみ捨て場に行く途中やホームの縁石に腰かけている時、通りがかる地区住民と挨拶を交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は、各種行事を通して地域の人々とも積極的に交流を持ち、認知症の方に対する理解を深めて頂けるように発信していたが、感染症予防対策の為、この1年間程は控えている状況。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	感染症予防対策の為、対面での会議開催は控えているが、2か月に1回、書面での運営推進会議を開催し、家族様代表・地域の区長・民生委員・学識経験者等から広く意見を頂き、サービス向上に活かしている。	ホームの運営状況や行事の予定と実施の様子を報告している。身体機能の低下等で、転倒のリスクが大きい現状に「職員間の話し合いが大事」等の貴重な意見がある。職員への感謝の言葉も寄せられている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	書面ではあるが、運営推進会議で情報交換の場を設けて協力関係を築いているほか、町や地域包括支援センターからも研修の案内を頂いて参加している。	介護保険制度の分からない事や事故報告、保険の認定、区分変更等で担当職員に相談と助言を得ている。町主催の多職種研修会や介護事業協議会の勉強会に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が身体拘束をしないケアの理念を理解し、身体拘束は行っておらず、毎月の会議でも日々のケア対応を互いに振り返っている。	身体拘束適正委員会を開催し、職員に内部研修を行っている。職員一人ひとり研修の「評価シート」を提出している。「仕事に行く」と外に出たい様子を見かけたら、側に寄り添い話をしながら一緒に行動する等見守る支援を行っている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全ての職員が虐待防止の理念を理解した上で、日々のケア対応に努めているほか、毎月の会議でも互いのケア対応を振り返り、確認している。	毎月のユニット会議で入居者一人ひとりのモニタリングを行い、身体拘束や虐待に当たらないか話し合っている。不適切な言葉やケアを発見した時は職員同士その場で注意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年数回と学ぶ機会は少ないが、各種会議や内部研修時等に成年後見制度をはじめとする権利擁護に関する話し合いを職員間で持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約手続きに関しては、家族様が理解出来たか必ず確認し、納得されるまで十分な説明を行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、利用者様・家族様がいつでも意見・要望が出せる体制を取っている。また、家族様が来所時は積極的に意見や要望等を聞き取り、サービス向上に反映させている。	今年度は電話での対応が多くなっている。面会の問い合わせが多く、11月より玄関にて10～15分の面会を実施した。入居者の顔写真の入った「悠里の郷便り」は家族に喜ばれている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、いつでも職員の話をも十分に聞き、質の向上に努めている。	毎月の全体会議やユニット会議で職員の意見や要望を聞いている。管理者の個別面談がある。リフレッシュ休暇の取り方や予防接種について話し合っている。裏門付近は暗いのでセンサーライトを設置した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は人事考課制度や職員個々の実績・勤務状況等を把握し、職員の配置を行って就業環境の整備を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人事考課制度を活用し、職員個々の力量を把握しているほか、外部研修への参加や定期的な内部研修を開催し、人材育成に努めている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での交流のほか、宮城県グループホーム協会に加入して研修に参加し、ケアの向上に努めている。	法人の特別養護老人ホームやデイサービスと合同で夏祭り等行事の企画実行を行う等連携を図っている。「日就会職員互助会」で交流をしている。亘理郡居宅連絡会や地区の吉田拠点会議に参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の不安・不満・要望・意向等を伺う機会を作り、個別に対応する事で、安心と信頼関係を気付く事が出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入時は利用者様・家族様からの相談や心配な事等を確認しており、面会時にも家族様への声かけを行い、家族様が安心出来るようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様・家族様の意向を確認しながら必要な支援を提供出来るように対話する機会を設けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活全般において利用者様と接する機会を持ち、共に過ごす事により、身近な存在であるようにしている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期通院に関しては、家族様の協力を得ながら行っている。 例年ならば敬老会・芋煮会等にも家族様の参加を促しているが、感染症予防の為、ここ1年間程は控えている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の体調や地域の感染症状況等に応じ、無理のない範囲で町内のドライブに参加して頂いている。以前は行事を通じて地域住民との馴染みの関係が継続出来ていたが、現在は控えている。	友人や知人などの来訪や墓参り等の外出は休止している。家族との外出は通院の時だけである。ごみ置き場に行く途中や天気の良い日にホームの縁石に腰かけて、歩いている住民と挨拶を交わしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格や相性等を把握し、食事の席や活動への参加を促し、良好な関係を気付く事が出来るように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した利用者様や家族様に関して、必要に応じた現状把握に努め、支援が必要な状況なのかを確認している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様一人ひとりの意向や暮らし方の希望を把握し、その人らしい生活が出来るように支援している。 把握困難な方には、本人の視点に立って話し合い、検討している。	日常の会話から入居者の思いや意向を把握している。「寿司が食べたい」の要求が多い。職員から声掛けし、会話を多くする工夫をしている。敬老会に化粧をし、おしゃれな服を着る方がいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の実態調査には、生活歴や生活環境・生活の様子等を確認している。 実態調査の資料を職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人ひとりの心身状態を把握し、個人に合った生活を送る事が出来るように支援している。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画とモニタリングを定期的に行い、利用者様・家族様の意向を確認している。 状態に変化が有った方には必要なケアを検討し、介護計画を作成している。	毎月のユニット会議で入居者一人ひとりのモニタリングを行い、担当職員がモニタリング表を作成する。6ヵ月毎に担当者会議を開き、計画の見直しをする。職員に「ケアプランについて」の研修会を行った。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	課題や心身に変化が有った場合はケースに記録し、情報の共有を行っている。 随時、利用者様の心身状態に応じて支援方法を検討し、実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	随時、利用者様の心身状態に合わせてケアの方法を検討し、実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	例年は、地域の高齢者の方へ行事案内を差し上げ、御参加頂く事で交流を持って楽しんで頂くようにしていたが、感染症予防対策の為、この1年間は隣接する特養ホームの苑庭を散策し、挨拶を交わす程度の状況。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様・家族様の希望する医療機関を受診している。本人様の状態に合わせて家族様と連携し、適切な医療を受ける事が出来るように支援している。	月1回の訪問診療の受診11名と、他は家族対応でかかりつけ医に通院をしている。通院時はケース記録を持っていく。歯科医の訪問治療と週1回歯科衛生士の口腔ケア指導の来訪がある。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当グループホームには看護職員が配置されていない為、隣接している特養ホームの看護師へ情報提供・連携し、適切な判断が出来る体制を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、利用者様の介護情報や看護サマリー等を提供している。早期退院に向けて、家族様や医療機関の相談員等との調整を行っている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した利用者様の家族様には、当施設として出来る対応を説明し、今後の支援について話をする機会を設けている。	「重度化対応に関する指針」を成文化して入居時に本人、家族に説明している。看取りはしていない。医療的処置が必要となった場合やホームで対応が困難な場合は医療機関や他介護施設へ移行と記してある。段階的に主治医と話し合い方針の統一を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	グループホームの職員は、消防署で開催されている救急救命講習を順次受講し、全職員が受講修了するようにしている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震・水害等の災害マニュアルを作成し、消防署の協力を頂き、年2回の防災訓練を実施している。災害時に備えて食品の準備と確認をしている。	消防署立会いで、夜間を含む消防訓練と防災訓練を実施している。入居者一人ひとりの状態を記入した「防災カード」はいつでも持ち出せるようファイルに閉じてある。カードは随時見直している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人ひとりに合わせた声掛けを行っており、自尊心やプライバシーを損ねる声掛けは行わないように支援している。	トイレ誘導の声がけは耳元でトーンに気を付ける、排泄や入浴時はタオルで覆う等恥ずかしい思いをしないよう配慮している。食事を残しても無理強いしないよう声がけに注意する等対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様の意向を尊重し、自己決定が出来るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の意思を尊重し、業務の流れを押し付ける事が無いように支援を行っており、無理強いはしないようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	気候・寒暖差等を考慮しながら、その人らしい身だしなみ・おしゃれが出来るように支援している。 清潔を保つ事が出来るように意識している。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材や畑からの穫れたて野菜を取り入れて食事を提供している。 下ごしらえや食器の片付け等の協力を頂いている。	入居者の好みや旬のものを取り入れた献立は職員が作成している。行事食や誕生日には手毬寿司やケーキを手作りしている。はらこ飯やホッキ飯食事会の日があり、入居者は大喜びで残さず食べる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事摂取状況・体重を把握している。 栄養・水分等が不足している利用者様には、その人に合った食品を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア希望の利用者様には、週1回、歯科衛生士による口腔ケアを行っている。 歯科衛生士にアドバイスをもらい、口腔ケアを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様一人ひとりの排泄を確認し、排泄状況の把握に努めている。 排泄パターンを把握し、個人に合ったケアを行っている。	排泄チェック表を活用して適切なトイレ誘導をしている。リハビリパンツやパッド、布パンツの方等一人ひとりの状態に応じた支援を行なっている。ふらつきのある方には、トイレから離れず見守っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトを多く提供し、午前にラジオ体操・午後には軽体操を行って運動している。排便が見られない利用者様に関しては、主治医に相談し、排泄状況に応じて下剤服用もしている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴状況を把握した上で、利用者様個々の意向に応じた入浴支援を行っている。	週2～3回の入浴を基本としている。拒む方には時間をずらしたりタイミングを見る等、声かけに工夫をしている。ゆず湯は大喜びである。浴槽をまたぐのが困難な方はシャワー浴にしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムに影響が出ない範囲で、その時々状況に応じた休息をして頂いている。 睡眠状況も把握し、記録している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	家族様より処方薬に関する情報提供書を預かり、職員が薬の管理を行っている。 服薬時は、手渡し介助や全介助等、利用者様の状態に応じた介助対応をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の状態に応じて、食器の片付け・清掃・洗濯物たたみ等の役割を担って頂いている。 また、各種活動や行事、外出・散歩等で、気分転換を図っている。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	独歩や車椅子にて施設敷地内や隣接する特養ホームの苑庭等の散策を行っているほか、利用者様の体調や地域の感染症状況等に応じ、無理のない範囲で町内のドライブに出掛けている。	亘理公園や竹駒神社等、季節を感じる外出はコロナ禍の為休止している。天気の良い日はウッドデッキや敷地内のベンチに腰かけて、おしゃべりや日向ぼっこをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外部の事業者へ支払う金銭は施設職員側で管理しているほか、手元に小遣いをもちたい希望があれば少額の金銭を自身で管理して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	精神的に不安定な時をはじめ、状態に応じて家族様へ連絡し、精神の安定を図れるように努めている。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内の装飾は季節に応じて変えて、季節感を感じ感じる事が出来るように工夫しており、利用者様が居心地の良い生活環境をつくるように努めている。	食堂は天窓から陽射しが入り明るい。定期的に窓を開けて空気の入替えを行い、湿みがなく適温を保っている。もみの木で作ったクリスマスツリーやサンタクロースが季節を感じる。談話室や和室等入居者は自由に出入りし、思い思いに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂フロア・談話室・和室が有り、気分に合わせて自由な場所で過ごして頂いている。天候の良い日には、屋外のベンチも御利用頂いている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には、馴染みの有る家具や装飾品等を自室内に持ち込む事が出来る事を説明し、自由にお持ち頂いている。	ベッドと押し入れ、洗面台が備え付けである。衣装ケースや一人用ソファ、テレビ等家具を使い易いよう配置している。位牌や家族の写真、自分の作品等を飾り、安心して過ごせる自分の部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室・トイレ・浴室前等に掲示物を設置し、トイレの場所もわかりやすいように工夫している。 一人ひとりの認知症の状態に応じて自立した生活が送れるような環境整備に努めている。		